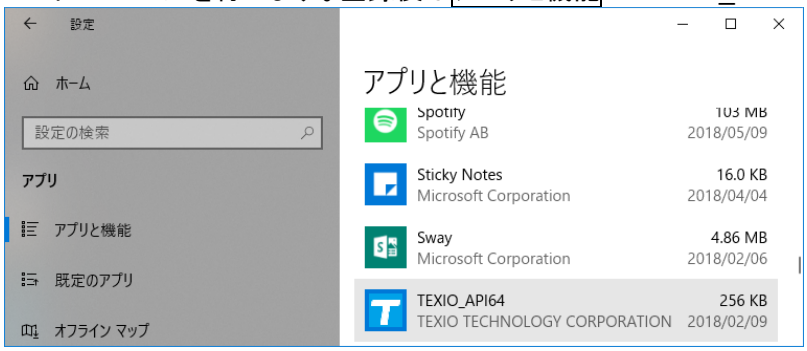
NOTE 13

TEXIO-USB デバイスのセットアップについて

PC の OS 環境が従来と異なり、API がインストールできない PC が増えてきましたので現状の PC での対応方法を記述したガイドラインを作成しました。
・現バージョンの対応 OS は Windows7、Windows10、Windows11 となっています。
・インストールは API とドライバの 2 回が必要です。自動では設定されないのでご注意ください。
・管理者権限で行ってください。
・弊社 HP から対象機種の API・デバイスドライバをダウンロードし、必ず解凍してご利用ください。

API のインストールについて

- PC に管理者権限でログインし、Windows Update を全て完了させます。更新ファイルがなくなるまで行わない場合は API のインストールが失敗することがあります。
- API フォルダにある Setup32.exe(32bit 向け)または Setup64.exe(64bit 向け)をダブルクリックし、メッセージに従ってインストールを行います。登録後はアプリと機能に TEXIO_API32 または TEXIO_API64 が表示されます。



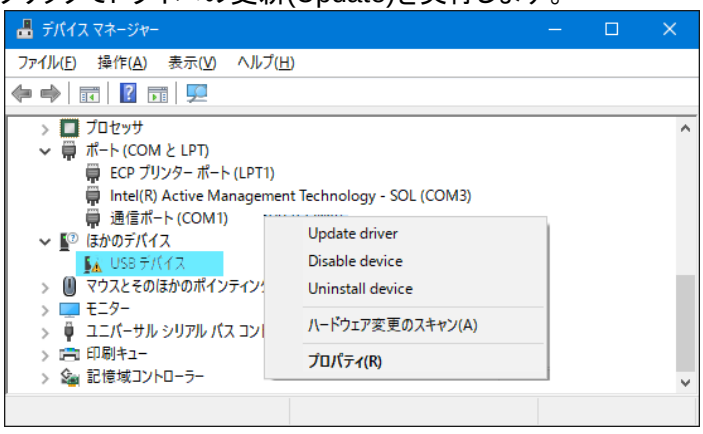
インストールがエラーになる場合は TEXIO_API32.msi または TEXIO_API64.msi をインストールしてください。

Windows Update が正常に完了している場合は、Microsoft.net Framework 4.6 以後と Microsoft Visual C++ 2013 Redistributable 以後が入っています。
OS の状況によって API の DLL がアプリケーションから正常に認識されない場合が発生しています。この場合は、API フォルダ vcredist_*にある C++ Redistributable(2010)を手動で追加インストールしてください、64 ビット OS の環境では 64 ビット版と 32 ビット版の両方のインストールが必要です。

DLL の場所は c:¥windows¥system32 及び c:¥Windows¥SysWOW64(64bit のみ)になります。Tmi_Api.dll、IF_50.dll、IF_60.dll があれば正常です。ユーザーアカウント制御の設定により Windows フォルダが仮想化されている場合は、ユーザーを切替えるとファイルが見えなくなることがあるので注意してください。

USB デバイスドライバのインストール

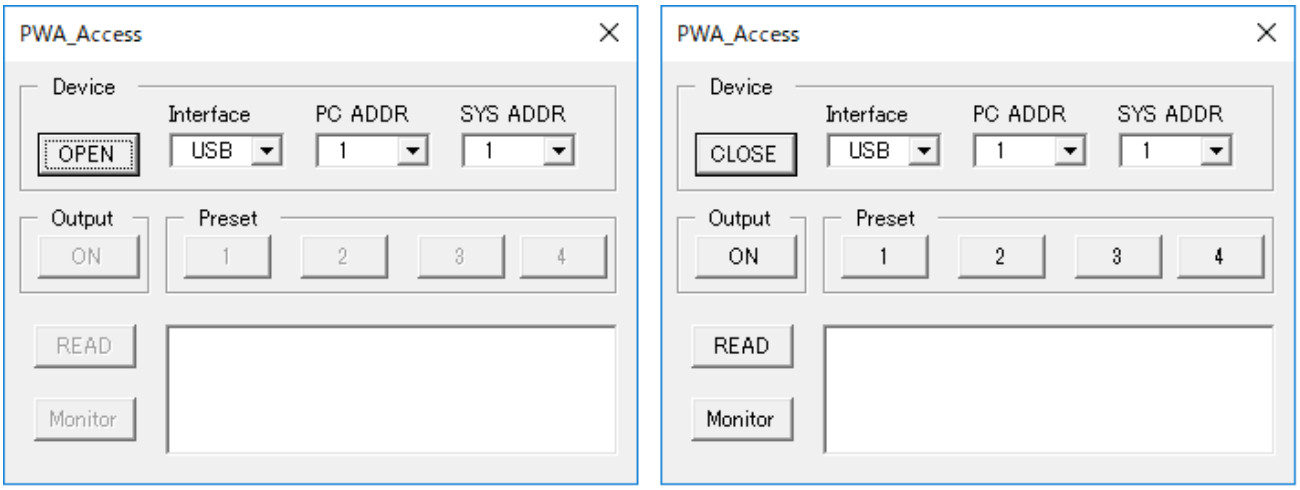
- デバイスマネージャを開いた後で、USB で TEXIO 電源を接続し電源をオンします。
- その他のデバイスに⚠三角マークのデバイスが追加で表示されます。
  セキュリティの関係で新規のデバイスの自動インストールができないことがあります。
- 右クリックでドライバの更新(Update)を実行します。



・ 手動でインストールを選択、フォルダに Driver のフォルダを設定してメッセージに従ってインストールします。
・ ユニバーサルシリアルバスコントローラーに TEXIO Universal Device が表示されるとインストールは完了です。

動作確認(ExcelVBA の例)

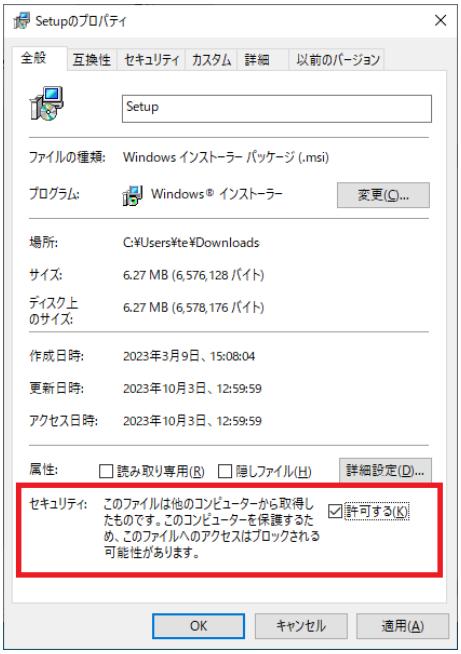
取扱説明書に従って電源にシステムアドレス：1、PC アドレス1を設定します。
PC にドライバ・API のインストールで使用したファイルの Excel フォルダにあるプログラムを実行します。
セキュリティの警告でコンテンツを有効にし、Start ボタンをクリックしてください。
インターフェースを USB、システムアドレスを1、PC アドレスを1にして OPEN をクリックします。
操作ボタンが有効化され、エラーが表示されなければ正しくインストール・設定が行われています。
Output と READ を順にクリックし、電源の出力がオンし、出力されている電圧・電流の戻り値が表示されることを確認、CLOSE をクリックしてから終了してください。



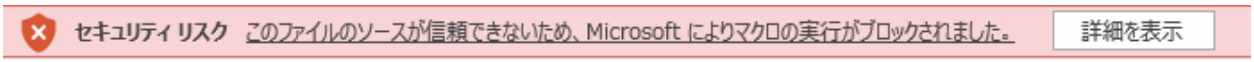
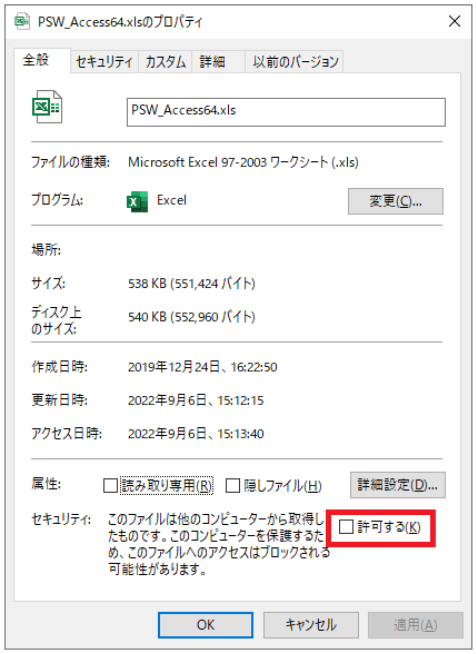
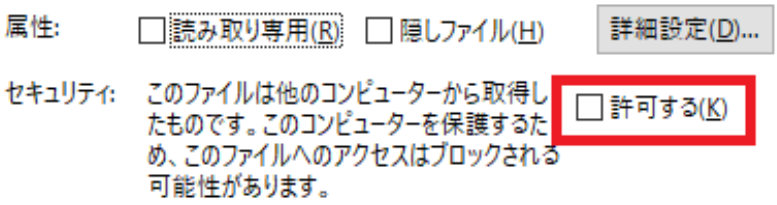
サンプルアプリケーションについて

現在サンプルアプリケーションは ExcelVBA、VB.net、VC#向けをメインで用意しています。
参考用に他のサンプルもありますが、その言語の保証環境以外での動作は確認しておりません。
新しい VisualStudio では機能変更により古いバージョンのプロジェクトを開くことができない場合があります、
この場合は一度 VisualStudio2013 等でプロジェクトを別名で保存してから新しい VisuaStudio で開くと、
自動でプロジェクトの修正が行われて正しく動作することができます。プログラム自体の変更はありませんので、
VisualStudio2013 が用意できない場合は、新しくプロジェクトを作成しソースファイルを取込んでも大丈夫です。

ホームページからWindowsPCにダウンロードしたファイルは、他のPCから入手したファイルという属性MOTW (Mark Of The Web)を持っています。ダウンロードしたファイルをデスクトップかTempフォルダに移動し、解凍します。次にそれぞれのファイルのプロパティでセキュリティを**許可する**にチェックを入れます。これでセキュリティが解除され利用可能となります。



同様にこの新しい設定が行われたマクロ付きExcelファイルを開くと以下のような表示となります。



従来のセキュリティによるブロックはExcelの機能なので、解除のボタンが表示されましたが、今回の表示では解除ができません。次の表示のようにエクスプローラから開くファイルのプロパティで”許可する”にチェックしてからファイルを開く必要があります。